ヒグマ対策について

１　ヒグマ対策のポイント

⑴　ヒグマについての正しい理解が必要です。

⑵　私たちの取り組み次第で、ヒグマとのあつれきは減少します。

２　人身事故の防止のために

（1）山菜採りなど活動中の事故を防止するためには、ヒグマの習性に対する正しい知識や人間側の対応法などに対する正しい認識が重要です。

人とヒグマとの最も深刻なあつれきは人身事故です。

その主な原因は、かつては山林作業やヒグマ駆除など、業務に関わるものが多くを占めていましたが、近年では山菜やキノコ採り等、レジャー活動によって人間がヒグマの生息域に立ち入ることにより発生するものが多くなっています。

ア　ヒグマと出会わないことが肝心

㈠　北海道の多くの地域はヒグマの生息地です。どこでも出没する可能性があります。

㈡　山菜採りなど山で活動をしている場合、ヒグマの生息域であれば常に危険があると考えましょう。

㈢　ヒグマと出会わないための用心をしなければなりません。

そのためにも守りたいことは、

『 ヒグマに近付かない 』

『 自分の存在をヒグマに知らせる 』

『 危険なヒグマを生み出さない 』

『 ヒグマに近付かない 』

◇ 足跡やフンなどを見つけたら要注意

山野ではヒグマが出没する可能性があります。

ヒグマの足跡やフンは、ヒグマがそこに居たという証拠です。

ヒグマがまだ近くにいないか状況をよく見極め、時には、引き返すことも必要です。

【足跡】

ヒグマは前足と後足で形状が異なります。野外では前足の足跡、特に肉球の部分が残りやすくなります。

指の数は前後とも５本です。普通に歩いたときの足跡は前足の前に後足の跡が残ります。

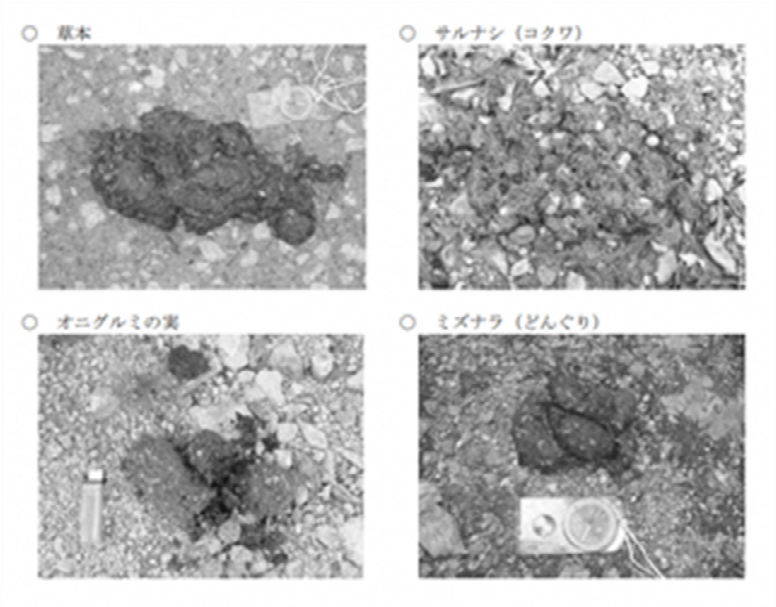
※地面の状態などにより不明瞭になります

【フン】

フンは、基本的に直径が４ｃｍ以上の太い俵型をしています。

ヒグマは消化があまりよくないため、食べたものがそのままの形で出てくることが多いのも特徴です。

足跡やフンは、慣れないと他の動物のものとの区別が難しいかもしれません。特にフンは、食べたものや時間の経過により色や形状が大きく変化します。



ヒグマは食痕や爪痕などの痕跡も残します。足跡やフン以外にもヒグマが近くにいる情報を得ることはできるので、危険を感じる前に引き返せるように周囲をよく観察しながら行動することを心がけましょう。

◇ 特に注意すべき場所は

ヒグマは食物を求めて移動をします。

ヒグマの採食地と知らずに近付いてしまわないよう、注意が必要です。

注意するために、ヒグマが季節ごとに食べるものを知っておくことが大切です。

◇ 季節ごとの人間の活動における注意

春【山菜・タケノコ採り】

山菜・タケノコ採りで採取をしている時の危険な行動は、

・採取に集中して周囲に注意が向いてない

・しゃがみ込むように作業しているため、草木に隠れてヒグマから認識しづらい姿勢になっている

・動きが小さくなってしまい熊鈴が鳴っていない ... などです。

こうなると、ヒグマと遭遇しやすい状況を生み出しやすくなります。

そのため、１人では行動せず、ヒグマが近くにいないか時々耳を澄まして、ホイッスルを吹く、（あれば）拡声器のサイレンを鳴らすなど自分の存在を知らせながら、周囲の状況を確認することを忘れないでください。

初夏～盛夏【釣り】

サケやマスは数少ない動物タンパク源であるため、ヒグマは大変好みます。

このため場所によっては遡上するサケやマスを求めて、周囲から何頭ものヒグマが集まることがあります。

川では音が聞こえづらいため、ヒグマに遭遇する危険性が高いので十分な注意が必要です。足跡や食べ残しなど見つけた場合、近くの河畔林の中にいる可能性もあります。

秋【キノコ採り】

キノコ採りも、春の山菜・タケノコ採りのようにどうしても意識が地面に集中してしまいます。しかし、例えばマイタケが生えるようなミズナラの森は、ヒグマの食料となるドングリもたくさん実っています。下ばかり向いていて顔を上げたらクマがいた、などということにならないよう、積極的に音を出して自分の存在を知らせるとともに周囲にも注意を向けてください。

その他【エゾシカなどの死体】

動物の死体から発生する腐敗臭は人間にとっては大変不快なものですが、同時に、そこにヒグマを引き寄せる魅力のある物体があることを知らせる「サイン」でもあります。

エゾシカの死体には要注意！

エゾシカの死体はキツネやカラスだけでなくヒグマの食料にもなります。エゾシカの死体がよく見つかる雪解け時の春先だけでなく、どの季節でも山林でエゾシカの死体を見かけたら注意が必要です。

特に、ヒグマが食料として確保している死体には草や土が被せられており、このような場所の近くにはヒグマがいる可能性が高く、直ちにその場を離れなければ大変危険です。

アザラシなどの死体にも要注意！

海岸に打ち上げられるアザラシ、トドなどの海獣類の死体もヒグマの食料となります。死体が見えなくても、ヒグマが海岸縁の藪の中に引きずり込んで食べていることも考えられるので、臭いや周囲の様子にも注意してください。

『 自分の存在をヒグマに知らせる 』

・音を立てる（熊鈴、ホイッスルなど）
・薄暗いときには行動しない

◇ 音を立てる【ヒグマは聴覚が大変優れています！】

（方法）声を出して歩く・鈴をつけて歩く・時々手を叩く、ホイッスルを吹くなど

※複数での行動は、話し声などの音を出す効果があります。

（注意すること）

・風向きによってはヒグマに音が届きにくくなります。
・風の強い日は、木々のざわめきなどで音がかき消されてしまいます。
・川沿いでは水音で音がかき消されてしまいます。
・爆竹や花火はヒグマを驚かせ予期せぬ行動を招くかもしれません。
・未訓練のイヌは、ヒグマを挑発し危険な事態を招くかもしれません。

ヒグマは獰猛な動物と思われていますが、基本的には臆病で人を警戒しており、人間との遭遇を避けるように隠れて行動するものです。

したがって、人の存在を積極的に知らせれば、一般的には人がヒグマに気付く前にヒグマの方から人との出会いを避けるように行動します。

◇ 薄暗いときには行動しない

視力は、人の方がヒグマより優れています。人がヒグマを見つけても、ヒグマは人に気付いていないこともあります。

また、ヒグマは登山道や人の踏み分け道を、日中は避けていても夜間や早朝・薄暮時には利用していることがあります。

したがって、夜間や早朝、また、濃霧や降雨時などの見通しの悪いときは、特に注意が必要で、行動を控えることも考えましょう。

特に登山者の方へ！

本州の夏山では雷を避けるためにまだ薄暗いうちから行動を開始しますが、雷が発生することが稀な北海道ではその必要は殆どありません。余裕を持って行動することは重要ですが、ヒグマとの遭遇をできるだけ回避するために、十分に明るくなってから複数人で出発するのが望ましいといえます。

『 危険なヒグマを生みださない 』【ヒグマは嗅覚が優れています！】

ヒグマは植物食を主体とする雑食性です。このため残飯や生ゴミなどはヒグマにとってはごちそうです。

弁当、お菓子などの食べ残しや空き缶などを決して捨ててはいけません。ヒグマがこれらの味を覚えると「人＝食べ物を持ってくるもの」と学習して人間に対する警戒心を忘れ、人身事故を起こす可能性が高くなります。

イ　ヒグマを引き寄せないために

ヒグマによる被害を回避するためにはヒグマに出会わないことが大切ですが、それと同時にヒグマを自分たちの周囲に引き寄せないようにすることも必要です。

(ｱ) 食材の管理【ヒグマは嗅覚が優れています。】

干物などを網に入れて軒下に吊していると、その臭いなどでヒグマを引き寄せてしまうことがあります。また、トウモロコシなどを屋外で干している場合も、ヒグマが見つけて食べにくることがあります。

こうした場合、事態がエスカレートしてヒグマが家の中まであさり出し、結果として人身事故に繋がりかねません。

【お墓へのお供え物も持ち帰りましょう。】

山林に隣接した墓地では、お盆の頃になると、お墓へのお供え物を狙ってヒグマが出没する例が毎年のように報告されています。

お参りに来る人が危険にさらされるだけでなく、事態がエスカレートして集落に出没することも考えられますので注意が必要です。

⑴ 生ゴミの管理【ヒグマは嗅覚が優れています！】

生ゴミはヒグマを引き寄せる元となります。

ヒグマは学習能力が高く、執着心が強いため、ゴミを食べることを覚えたヒグマは同じ臭いを求め積極的に人間に接近するようになります。

【生ゴミの危険性】

人間の出す生ゴミを食べることを学習したヒグマは、人間に対して攻撃的になるといわれています。また、食物の嗜好が親から子へと引き継がれて続くおそれもあります。コンポストも寄せ付ける原因となる場合があります。

【捕獲だけでは問題の解決にはなりません。】

生ゴミに餌付くヒグマは１頭とは限りません。

たとえゴミに餌付いたヒグマを捕獲（排除）したとしても、手軽に得られる食料＝生ゴミがある限り、新しいヒグマが現れる可能性があります。

【原因を取り除くが大切です。】【生ゴミの管理が必要です。】

生ゴミは臭いがもれないように保管すること、収集日の朝に出すなど、マナーを守ることと、ゴミ出しまでの間に屋外に置かないようにすれば、生ゴミに餌付いたことによるヒグマ出没の危険と恐怖は回避できるものです。

⑵ ヒグマと遭遇してしまったら

ヒグマ遭遇してしまった時は、まず冷静になることが大切です。

『 慌てて逃げ出さない。』

『 ヒグマを驚かせない。』

ヒグマに遭遇してしまったときに、こうすれば事故を防げる、という確実な方法はありません。

ただし、慌てて逃げ出すと、かえってヒグマに追われかねません。

ヒグマに遭遇してしまったときには、ヒグマを驚かせたりしないよう、まずは冷静になって状況を判断することが大切です。

これから紹介する事例は対処法の基本ですが、絶対というものではありません。

◇ 遠くにヒグマを見つけたら

⇒ 落ち着いて状況を判断してください。

◇ ヒグマがこちらに気付いていないなら

⇒ ヒグマを注視しながら、少しずつ静かにその場を離れてください

その先に目的地があったとしても戻ることが大切です。このとき急激な動作や大声を出してはいけません。

◇ ヒグマがこちらに気付いていたら

⇒ 冷静に行動してください。

落ち着いて行動すれば、ほとんどの場合はヒグマの方から立ち去るものです。

距離が相当ある場合には、ヒグマの動きを妨げることのないように移動する方向を見定めながら退避してください。

追い払おうとして大声を出したり、石を投げつけたりしてはいけません。クマを興奮させ予期せぬ行動を誘発することになり、大変危険です。

◇ ヒグマが立ち上がっても

⇒ 慌てないでください。

ヒグマが人やその気配に気付いた時に、立ち上がることがあります。

これは、ヒグマが周囲の状況を確認したり逃げる方向を探るために行うもので、人を威嚇するためのものではありません。軽く手を挙げて、ヒグマに人の存在を知らせることも対応法の一つです。

◇ 子グマを見たら

⇒ 近くに必ず親グマがいます。

子グマを見かけたらその近くには必ず母グマがいます。

母グマは特に神経質なので、ゆっくりと子グマから離れます。

間違っても、子グマを保護しようとか、写真を撮るために近づこうとかしてはいけません。　人身事故に繋がります。

◇ ザックなど荷物をとられた。

⇒ 取り返そうとしてはいけません。

一度ヒグマの手に渡ったものは、ヒグマの所有物になってしまったと考えてください。

ヒグマは執着心が非常に強いため、取り返そうとすれば、ヒグマは自分のものを取られたと考え、深刻な事態を招くおそれがあります。

どれだけ重要なものが入っていたとしても荷物は諦めて直ちに離れてください。

【ヒグマ注意特別期間】

ヒグマによる人身被害の未然防止を図るため、北海道では、平成 14 年度から、道民等が山菜採りやキノコ採りなどのため、ヒグマの生息する野山に入る機会の多くなる春季と秋季に、ヒグマに対する注意喚起及び被害防止に関する普及啓発を行っています。

３　農業被害の防止・減少のために

(1)　被害の実態について

ア 被害の内容

ヒグマは雑食性なので農作物から家畜まで、被害の対象は様々です。

それまで被害を受けていない作物でも、ある年から急に被害が発生することがあります。

また、一度被害を受けた土地では同様の被害が続く傾向があります。

イ 被害の発生時期

被害の発生時期は対象によって変わってきますが、一般的には農作物の作付け直後から被害が出ることはありません。　被害は収穫期に発生しますが、ヒグマは被害を及ぼす前に作物の生育具合を偵察にやって来ることがあります。

◇ 一般的な農地

春：畑の周辺で、通りがかりと思われる個体の出没が見られることがあります。

夏：８月初旬までは、出没があっても被害に至ることは少ないようです。
８月中旬になると農作物被害が生じ始めます。

秋：収穫時期は被害発生のピークでもあります。

◇ 家畜等

家畜を一度でも襲ったことのあるヒグマは、その後も毎年のように現れるといわれています。

被害の発生時期には特に明瞭な傾向は見られませんが、放牧地においては出産期には特に注意が必要です。

◇ 養蜂

蜂蜜はヒグマの大好物です。

したがって、養蜂はそれ自体がヒグマを強く誘因することになるので、被害はいつでも起こり得ます。養蜂をヒグマの生息地で行う場合は、必ず電気柵などの防除対策が必要です。

防除策をとらないまま有害鳥獣捕獲を行っても、捕獲後にまた別の個体がやってきてしまい、被害の解決には結びつきません。

(2)　被害を発生させないために

【ヒグマによる被害の発生には、その理由があります。】

ヒグマが出没する地域のうち、農耕地では作物がヒグマの食料となりうるので、防除策を何もしていなければ被害が発生するおそれがあります。

被害を発生させないためには、相応の対策をとる必要があります。また、収穫物を畑の脇に仮置きすることや、規格外の収穫物を放置することは、ヒグマを誘引する原因となります。

⑶　心理的な不安の解消・軽減のために

「わからないこと」や「知らないこと」に対しては、不安が大きくなるものです。

ヒグマの出没に対する心理的な不安の解消や軽減を図るためには、ヒグマの習性に対する正しい知識や人間側の対応法などに対する正しい認識が重要です。ヒグマが真昼に農耕地へ出てきたり、場合によっては人里近くに現れることは一般的ではありません。

なぜなら、ヒグマは基本的に人間を警戒しており、開けた場所に姿をさらすことは避けるからです。逆にいうと、ヒグマが出没する時にはそれ相応の原因がどこかにあると考えられます。

例えば、生ゴミ＝ヒグマの食料となり、その臭いにより遠くからヒグマを引き寄せてしまいます。そして、ヒグマが隠れるところ＝山林や草藪などが、その採餌場と隣接していれば出没しやすくなります。

夏、暑い時期になると、それまで食べていたフキなどの草本類は固くなり食料に適さなくなる一方で、ドングリなどの果実類が実るにはまだ早いなど、暑い時期は自然界の餌が少なく人里に下りて来やすい時期でもあります。また、生ゴミの腐敗が早いので、出し方などきちんと管理をしなければその臭いがヒグマを引き寄せてしまいます。

生ゴミの出し方が悪いなどの出没原因が放置されたままであれば、出没は続いてしまいます。　逆に、目撃が一度だけの例などでは、ヒグマ（特に若いオス）が親グマから離れて一人立ちするために、自分の場所を求めて移動するときにたまたま目撃されたということも考えられます。

４（おさらい）ヒグマ対策で守りたいことは、

『 ヒグマに近付かない 』

『 自分の存在をヒグマに知らせる 』

『 危険なヒグマを生み出さない 』　　です。この３つを守りましょう。

「本資料は、北海道が策定した「ヒグマ対策の手引き（令和３年３月２４日改訂版）」等を基に作成したものです。」